

県 中 広 報

事務局発行 (E-mail : h34@ken-chu-hiroshima.nss55.net)

令和3年2月5日

(http://www.ken-chu-hiroshima.nss55.net/)

文部科学大臣教育者表彰並びに広島県教育賞おめでとうございます！

文部科学省並びに広島県教育委員会においては、学校教育の振興に関し、特に功績が顕著であった教育者に対し、毎年、表彰を実施されています。このたび、令和2年度表彰者が決定され、広島県公立中学校長会から4名の方が受賞されました。会員一同、心からお祝い申し上げます。

文部科学大臣教育者表彰 田坂 裕一 校長〔廿日市市立大野中学校兼大野西小学校〕

広島県教育賞 舩金 智秋 校長〔東広島市立西条中学校〕

広島県教育賞 定宗 譲二 校長〔庄原市立庄原中学校〕

広島県教育賞 藤井 哲也 校長〔廿日市市立四季が丘中学校〕

第4回理事会

基本姿勢 “新たな時代への挑戦！”

令和2年12月4日（金）にアークホテル広島駅南にて令和2年度第4回理事会を開催しました。

会長挨拶

舩金会長からの挨拶の要旨は次のとおりです。

1 県中校長会新教育ビジョンについて

今年5月、全日中では急激な教育環境の変化に対応し、ほぼ10年ぶりの改訂版となる「全日中教育ビジョン-学校からの教育改革-」を策定し「10の提言」として学校が取り組むべき具体的な事項を示しました。本県校長会においても、全日中の動きに連動しつつも本県独自の教育課題に対応した新たな教育ビジョンの策定作業を進めてきました。今後、幅広くご意見をいただく中で「広島で学んでよかった」と思える日本一の教育県の実現に向け、全会員の思いが反映されたビジョンとなるよう進めてまいりたいと考えております。



2 新学習指導要領と学習評価について

来年度の新学習指導要領全面实施とともに、その学習評価の在り方は高校入試にも直結するものであり、中学校教育の信頼性に大きくかかわるものです。これまで教育研究委員会を中心に継続して取り組んできたところであり、その提案を基に、次年度に向けた方針の再確認を行っていきたいと考えています。加えて、広島市中学校長会ともしっかり連携していきたいと思っています。

3 第20回県公連研究大会について

他県に類を見ないこの連合会は、平成10年の是正指導を機に組織化されたものであり、公教育の「中立性」「公開性」を重視する中、その時々々の教育課題に対して校種を越えた取組を行ってきました。特に今年度の研究大会は20年目の節目であることから、講師に辰野元教育長をお迎えして開催されます。参加者を限定して行わざるを得ない状況ではありますが、本県教育の歴史と県公連組織発足時の思いをしっかりと伝えることが重要であると思っておりますので、参加された先生方はそれぞれの校長会で共有していただき、有意義なものとしていただきますよう期待しています。

4 広島県公立中学校長会の今後の取組について

今年度は多くの行事を例年と異なる形で進めざるを得ませんでした。各校の取組の中でも「with コロナ」時代への対応として、来年度以降も生かせる取組や方法があるのではないかと考えています。県中校長会としても、活動の在り方や行事の開催方法等を見直す良い機会と捉え、今後の計画を策定してまいります。そうした中でも、四専門委員会が例年に近い活動ができ、研究を継続することの重みを痛感しています。

報 告

次の報告がありました。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 会務報告 | (5) 県中学校体育連盟報告 |
| (2) 全日中第2回理事会報告 | (6) 四専門委員会報告 |
| (3) 県公連第3回理事会・評議員会報告 | (7) 県中学校教育研究会報告 |
| (4) 県公連第3回不祥事防止対策特別委員会報告 | |

議 事

次の議事について審議しました。

- (1) 令和3年度県中行事計画（案）について
- (2) 県中教育ビジョンの改訂（案）について
- (3) 観点別学習状況のカットングポイントの目安について



情報交換

令和2年度卒業証書授与式と令和3年度入学式の開催日、中学校の統廃合・校名変更等、今後の学校行事の見直しについて情報交換を行いました。

広島県教育委員会からの指導講話

広島県教育委員会 教育センター所長（兼）参与 生田徳廉 様をお迎えし、「主体的な学びの創造に向けて 校長に期待すること」と題し、指導講話をいただきました。主な内容は次の通りです。

○緊急事態への対応

新型コロナウイルス感染症に係る通知を、これまでいろいろ発出してきた。確実なコロナ対策をするとともに、タイムリーな情報収集、共有、報連相、提供、発信を。その中でも「学びを止めない」「初任者を育てる」そのために「学校はどうあるべきか」「何を残し何を止めるか」を適切に判断すること。

○「学びの変革」第3期

来年度から新学習指導要領が全面实施される。文科省も「これからは目的を自分で決めることができる子供を育てなければならない」と言っている。「いい授業」とはどんな授業であろうか。「深い学び」は「深い問い」から創られる。校長として、授業を見る「視点」をしっかりとってアドバイスしてほしい。若手も増えてきている。「失敗してもいいからやってみなさい」や「あなたに頼んでよかった」といった肯定的な声かけや具体的な指導を、管理職がしている学校では若手が育っている。各校でしっかり育成してほしい。



○義務教育の目的

企業が選考試験で重視したことは、10年以上「コミュニケーション能力」が1位。また、教育基本法では義務教育の目的を「自立的に生きる基礎を培い・・・」とある。義務教育が果たすべき役割が、ここにある。しかし2019年アジア欧米9カ国調査で、日本は「将来の夢を持っている」は約60%、「自分は責任ある社会の一員だと思う」は約40%と、他国に比べてかなり低い結果であった。これからの社会で活躍する子供たちに、「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」を身に付けてもらいたい。

○令和3年度の鍵

一人1台PCの時代到来である。これを「主体的な学び」にどう生かすか。Society5.0時代に生きる生徒にとってPC 端末は、鉛筆、ノートと並ぶマストアイテムとなる。もう「元には戻らない」。授業や家庭で当たり前になるのだから、今後の取組の柱にしなければならない。

不祥事防止対策特別委員会

理事会終了後、不祥事防止対策特別委員会を開催しました。

第20回広島県公立学校校長会連合会研究大会

令和2年12月25日に、広島県公立学校校長会連合会研究大会創立20周年記念大会が上野学園ホールで開催されました。午後からの半日開催となりましたが、まず広島県教育委員会の平川教育長から『「学びの変革」を進める次の一手』と題してご講話いただきました。「学びの変革」実現後の授業・教室のイメージと学習の姿を示され、そのための「次の一手」の具体等についてお話いただきました。続いて、西部地区はステージで、広島市北・安佐南と安芸高田市は紙面での活動報告があり、四専門委員会各委員会（生徒指導委員会がステージ）の研究報告がありました。その後、不祥事防止対策特別委員会報告が行われました。続いて、元広島県教育委員会教育長 公益財団法人 教科書研究センター常務理事 辰野裕一様より、「ひろしま教育の回顧と展望-ふり向けば未来-」と題してご講演いただきました。平成10年5月に広島県教育が当時の文部省から是正指導を受け、辰野様が7月に教育長に就任し、中立と公開を柱に取り組み、3年で基盤を作られたこと。そして未来に繋げるための校長会連合会の発足を提案いただき、設立大会から20年となる節目の研究大会に当たって、新たな連合校長会としてこれから何を目指していくべきか等の多くのご示唆をいただきました。



コロナ禍においてYouTube 配信視聴と異例の方法でしたが、皆様に参加できる大会を行うことができました。心から感謝申し上げます。

第5回四専門委員会

令和3年1月8日（金）に予定していた第5回四専門委員会は中止となりましたが、研究集録のまとめと、次年度の方向性について確認されました。

専門委員会	次年度の方向性
学校経営委員会	次年度は引き続き、学校経営上の大きな課題である「教職員の業務改善」と「新しい生活様式」の2本を研究の柱として調査・研究する予定である。研究が進むよう早期にコロナウイルス感染が収束することを願っている。
教育研究委員会	次年度は、新学習指導要領の全面实施を受け、「指導と評価の一体化」を柱として取り組みたい。学習の成果を的確に捉える学習評価及び日々の授業改善につながる校内研修等の在り方についての調査・研究を行いたい。
進路指導委員会	次年度は、今年度できなかった実践事例の収集に取り組みたい。キャリア教育推進に係る調査・研究に関しては、調査項目を精査し、課題解決につながるような提言に繋げていきたい。進路未決定者調査も継続して実施していく。
生徒指導委員会	次年度は、次の2点について研究を実施したい。①「不登校」について本年度までの研究を継続・発展させる。② 全体の約70%の校長が悩んでいる「SNS等のインターネット上における諸課題」に係る研究を開始する。